



そよかぜ 2月園便り

令和3年2月1日(月)

西東京市立そよかぜ保育園

先日0歳クラスの子どもたちとお散歩に行ったところ、山茶花はすっかり花びらを散らしていましたが、代わりに梅の花がきれいに咲いていました。徐々に春の足音を感じます。

明日は節分。「密を避けて、ソーシャルディスタンスを保った豆まき」はどうなることでしょうか。巷では「そよかぜ保育園の鬼は怖い」との噂もあるようですが、子どもたちにとって「本当に怖いもの」が一つくらいあっても良いのではないかと私たちは考えています。

もちろんいたずらに怖がらせることはしませんが、怖い顔・怖い仕草・怖い雰囲気…それらの視覚的な要素に加え、「鬼は怖いもの」という認識が子どもたちの中にしっかりあるということですよね。

ではいつから「鬼は怖いもの」と認識するのでしょうか。一番小さい0歳クラスでは生まれて初めて見る物で、何が何だかわからずに只々ポカンとしているといった姿も見られます。これは当たり前の反応ですね。

乳児クラスの間は、前述した視覚的要素が多分に働き、とにかくその容姿や迫力に押されて大泣きする子が続出します。また、あまりよく分かっていなくても、誰かが泣くとあちらでもこちらでもつられ泣き。泣き声の方が怖さを助長する…乳児クラスはこんな様子で節分を過ごしています。

幼児クラスになると、保育の中で読み聞かせをする絵本の中にも「鬼」が登場してきます。「ももたろう」「こぶとりじいさん」「泣いたあかおに」「だいくとおにろく」「いっすんぼうし」「じごくのそうべい」「まゆとおに」・・・。

鬼は“**悪者**”として描かれ、退治する主人公の活躍を描く勸善懲惡の物語

鬼の中にも**心優しい者**がいて、友のために遠く離れることを選択した切ないお話

怖がらせようとしても全く効き目がなく**困り果ててしまう姿**を面白おかしく表現したもの

…等々、子どもたちはどのお話に対しても自分の中でイメージを膨らませ、その世界の中で冒険をしたり、切ない思いに共感して涙をこぼしたりします。そういう物語体験を重ねて、また現実の世界に帰ってくるのです。

「鬼」が現実の世界のものではないことも分かっているけれど、やっぱり「怖いもの」。この感覚がとても大切だと思っています。

今の社会においては「バーチャルな世界」が注目を浴びていますが、現実とフィクションの区別ができなくなっている人も少なくないと聞きます。それでは困ってしまいますよね。

子どもたちには物語の世界と現実の世界を自由に行き来できる柔軟な想像力と思考力を身につけて、明日の節分も怖いけれど皆で豆まきをして鬼を追い払ってもらいたいと思います！そして穏やかで暖かい春を迎えましょう。

クラス通信



散歩先に着くと、“はやくワゴンから降りたいよ〜”とアピールして大人と一緒に
まてまてあそびや、からすかずのこ、ことりことりなどたくさん体を動かして遊ん
でいます。最近ではお友達の名前を呼んだり、リズムでお友達と手をつないで歩こ
うとしたり**お友達同士の関わり**も見られるようになってきましたよ。

2月は節分！「山から鬼が降りてきた〜ドンドンドン！」と大人が歌を歌うと、
鬼の帽子をかぶって鬼のパンツをはいて鬼になりきっているひよこ鬼です！！

寒さが本格化して、風が冷たい日もありますが、子ども達は毎日元気いっぱいです。

1月は**風車**を持ってたくさん走って遊びました。クルクルと回ると「見て見て！
回ったよー！」と嬉しそうに教えてくれます。

先日は節分製作もしました。自分達で作り上げた**鬼のお面**をつけて、「山から
鬼が降りてきた〜」と鬼になって遊んでいますよ。ドシンドシンと一生懸命に
足踏みをする姿がかわいいです。園ではもうすぐ節分があります。鬼にも病気
にも負けないように毎日元気に遊んでいきます！！



先月は、凧揚げ、氷探しなど冬ならではの遊びを楽しみました。**団地内の池**が
凍っているのを見つけ、大きな氷をみんなで触ったり、地面に落として足で踏ん
だり、凍った池に投げ入れ“パリン！”…「冷たい！」と言いながら**感触**や**音**
を楽しみましたよ。「保育園で氷を作ってみよう」と提案すると「かき氷にしようか」
「イチゴ味がいいな」と話していたすずめ組。バケツやタライに水を張って園庭に
置いてみますが氷にならず…寒い日を狙ってもう一度作ってみます。さて氷になる
かな??

今月もたくさん散歩に出掛けて体を動かして遊びます。

久しぶりに降った雨の翌日、真っ青な空の元、木立を通り抜けていると陽の光が差し、
温かい風が子ども達の頬を撫でいきました。その後ろ姿に見とれていたら、「アッ！！
カメさんが**伸び**してるよ」「**リズム**（遊び）のカメといっしょだね」「カメさん、
カメさん、**顔上げてー**」「♪もしもし、かめよ、かめさんよー・・・♪」と歌声が池の
周りに響きわたっていました。広場に着くと、小鳥たちが餌をついばんでいるの
を見つけると「わー！小鳥がいっぱいいるよー」リュックを背負ったまま追いかけて回
る姿は、真冬だというのに元気はつらつ。

今月も感性豊かな気持ちを大切に、季節を感じていきます。





先週、鬼のお面づくりをしました。「もうすぐ鬼くるの?」「節分は2月2日なんだよ!」と子どもたち同士で話していたり、絵本の『じごくのそうべい』(8月園便りにて紹介しました)を読むと「こんな鬼もいるんだ~」と鬼の話で持ち切りです!

味噌づくりも行いました。豆を煮て潰し、塩と麴を混ぜたり・・・出来上がる今秋まで待ち遠しいです。

今月も寒さ厳しい中、マラソンでたくさん走り、身体ポカポカにして負けずに遊びます。

1月に入ってすぐに鬼のお面製作が始まり、たくさんの粘土をこねてこねて、土台となる鬼の顔を作りました。「角は何本にしよう?」「目はどんなのがいいかな?」とそれぞれ考えながら作っていました。土台ができた後は、奉書紙を何枚も張り重ねていくのですが、貼ってないところがわからなくなってしまったり、何枚目まで貼ったのか忘れてしまうことも…。厚みが出て固くなったら粘土外し。そのあとは色を塗ったり、髪の毛をつけたり!工程はまだありますが、どんなお面ができるか、楽しみに作っていきます!

今月は節分もあり、鬼が来るかドキドキの前半を終えた後には、外で元気いっぱい、海賊ごっこゲーム、缶蹴りなど楽しんでいきます!!



HP 情報

各クラスの鬼のお面で遊ぶ姿



4.5 オクラスの味噌作り



の様子も UP します。

是非ご覧ください。

2月 園行事のお知らせ

2日(火) 節分の会
18日(木) 誕生会

10日(水) 布団乾燥
24日(水) 避難訓練

16日(火) ひな祭り用餅つき

休み明けの鬼模様

「鬼だぞー」 自分で作ったお面をかぶり事務所に入ってきた小さな鬼たち。
ヒイラギの葉をひらひらさせながら応戦。 泣き笑いの渦に包まれ、賑わう朝。
ドキドキしながら楽しい時間が過ぎていきます。

春よ 来い 早くこい！

いり豆を作り 太鼓を打ち鳴らし 盛大に豆まきをし、コロナに負けないぞー！！

便利な 毎日 いいのかなー

朝食を温めようと、レンジに入れ、「チン！」 「出来ました。」と優しい声がする。
しばらくすると 「忘れていませんか？」 慌てて取りだすと「また 使ってくださいね。」の声。
忙しい朝 強力な味方である。「この品物はこのくらいの時間が要るかな？」などと考えるいとまもなく
全部お任せ。温め過ぎることもなく、程良い加減で出来上がり。設定通りです
凄いいことができる時代に感嘆し、「これは便利！」と使い始めたのですが、だんだん考えることをしな
くなり、指示されることに慣れているのです。「まずいなー！！」

「おおよそ」と予測し、「いい按配」と実感し、「やったぞ！」と満足。自己肯定感を高め、自信につな
がり、「私」を感じる大事な体験が薄くなっているのです。

生活の中で様々に失敗や成功を重ね、泣き・笑いが、人間性を豊かにすると思うのですが、密を避け、
関係性を最小限に止めなければならない今、子どもたちとの関わり方に工夫が要ります。大人たちは
常にマスクが外せませんので、「いやだ！」「いいよ！」と気持ちをぶつけ、相手を慮る力はどのように
すると育ちあえるだろうかと、悩みます。

誰もが経験しなかった事態「コロナ禍」で、この一年は当たり前のようにやってきた様々な取り組み
が、ことごとく変更され、最小限になりました。

「黙食」の推奨もあります。会話をすることなくモクモクと食べるのですが、「美味しいねー」「この
〇〇 大好き！」「もっと食べたい」「苦手だけど 皆と一緒に食べると食べられた！」「また 作ってね。」
と 共感の機会は失いたくないと思うこの頃です。

職員のつぶやき

早いもので4月にみどり保育園に入職してもうすぐ1年。ようやく子どもたち・保護者の皆さんに
顔を覚えてもらえるようになりました。職場が変わり、感じたことは「新しいことを覚えるのは大変！」
ということ……。毎日頭で考えて動いているようで、パターン化した中で生活していたのだと改めて
実感しました。

話は変わりますが、我が家で最近ブームになっているのが、ボードゲーム。以前からやっていたの
ですが、次男（小1）がゲームを出来るようになり、再ブームがおとずれました。子どもたちも今まで
のように大人の作戦には乗らず、自分たちで作戦を立てて、何とか勝とうと必死です。白熱するとあっ
という間に1・2時間過ぎていきます。「あー 楽しかった。またやろうね！」と勝っても負けても笑顔で
終われるようになり、成長を感じる今日この頃です。

みどり保育園 酒井 典子（看護師）